

人間関係論

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野、教養教育センター		
担当教員	相澤 文恵 教授、田澤 光正 非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数	講義 21 時間
期間	後期		

・学習方針（講義概要等）

人間関係の基本は「自分自身を知る」ことである。一般的に人は他者に照合することによって自分自身を認識し、他者の存在によって自分の社会的役割を認識する。保健医療の現場では専門職が職務をスムーズに遂行する基盤として良好な人間関係を構築することが不可欠である。また、対象者とのような人間関係を構築できるかが援助の質を左右することにつながる。医療の質や倫理が問われている今、医療人として人間関係のあり方やその特徴を理解することは重要な学修課題であり、本科目によって良好な人間関係を構築する方法を習得する。

・教育成果（アウトカム）

人間関係に関する基礎知識を理解し、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、医療人としての職務を遂行する際に良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。

(ディプロマポリシー：1,2,4,6)

・到達目標（SBO）

1. 自己概念を理解する。
2. 対人認知に関わる要因を説明できる。
3. 社会的相互関係について説明できる。
4. 集団意志決定について説明できる。
5. リーダーシップについて説明できる。
6. コミュニケーションの構成要素と過程を説明できる。

・ 講義日程
【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
9/5	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>イントロダクション 【双方向授業とグループワーク】</p> <p>1.人間関係論を学修する意義について説明できる。</p> <p>2.人間関係を改善する方法を列挙できる。</p> <p>3.コミュニケーション意欲を高める方法を説明できる。</p> <p>事前学習：教科書の 28～31 ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについて復習する。</p>
9/12	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>自己意識 【双方向授業とグループワーク】</p> <p>1.自己意識について説明できる。</p> <p>2.自己意識を豊かにする方法を列挙できる。</p> <p>3.リフレーミングのスキルを身に着ける。</p> <p>事前学習：自分はどのような人間であるかを振り返ってみる。 事後学習：課題テーマについて復習する。</p>
9/19	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>対人認知 【双方向授業とグループワーク】</p> <p>1.印象形成に関わる要因を列挙できる。</p> <p>2.ステレオタイプについて説明できる。</p> <p>3.対人認知の歪みに関わる要因を列挙できる。</p> <p>事前学習：教科書 32～33、98～99、106～109 ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについて復習する。</p>
9/26	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>対人魅力・対人葛藤 【双方向授業とグループワーク】</p> <p>1.対人魅力に関わる要因を列挙できる。</p> <p>2.対人葛藤について説明できる</p> <p>3.親密な関係の崩壊について説明できる。</p> <p>4.葛藤への対処について説明できる。</p>

					<p>事前学習：教科書の 106～109、ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについて復習する。</p>
10/3	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>社会の中の個人(【双方向授業とグループワーク】 1.個人的アイデンティティについて説明できる。 2.社会的アイデンティティについて説明できる。 3.内集団ひいきについて説明できる。</p> <p>事前学習：教科書の 80～83、134～137 ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについて復習する。</p>
10/10	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>集団の中の人間(1) 【双方向授業とグループワーク】 1.集団形成に関わる 4 つの懸念について説明できる。 2.集団規範と集団圧力について説明できる。 3.リターンポテンシャルについて説明できる。 4. 同調について説明できる。 5. 逸脱行為に影響する要因について説明できる。</p> <p>事前学習：教科書の 128～132 ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについて復習する。</p>
10/31	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>集団の中の人間(2) 【双方向授業とグループワーク】 1.集団意志決定について説明できる。 2.集団極化について説明できる。 3.集団的浅慮について説明できる。 4.ブレインストーミング、コンセンサス法を用いた意思決定ができる。 5.社会的促進と社会的手抜きについて説明できる。</p> <p>事前学習：教科書の 140～147 ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについて復習する。</p>

11/7	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>集団の中の人間(3) 【双方向授業とグループワーク】</p> <p>1.リーダーシップについて説明できる。</p> <p>2.リーダーシップの発生過程について説明できる。</p> <p>3.リーダーシップの種類を説明できる。</p> <p>事前学習：教科書の148～149ページを読んでおく。</p> <p>事後学習：課題テーマについて復習する。</p>
11/14	木	2	教養教育センター 心理学・行動科学分野	田澤 光正 非常勤講師 相澤 文恵 教授	<p>地域保健における人間関係</p> <p>1.住民の健康に寄与する多様な人々の存在を説明できる。</p> <p>2.健康に寄与する多様な人々との人間関係を説明できる。</p> <p>事事前学習：任意の市町村ホームページを閲覧し、地域保健のシステムについて確認する。</p> <p>事後学習：課題テーマについて復習する。</p>
11/21	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>コミュニケーション(1) 【双方向授業とグループワーク】</p> <p>1.コミュニケーションの構成要素を列挙できる。</p> <p>2.コミュニケーションの過程について説明できる。</p> <p>事前学習：自身がコミュニケーションを円滑に行うために心がけていることについて振り返る。</p> <p>事後学習：課題テーマについて復習する。</p>
11/28	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>ビブリオバトル(1) クラスマッチ 【プレゼンテーション】</p> <p>1.人間関係に関わる題材を扱った本の中から、各自が伝えたいことに応じて適当な本を選択できる。</p> <p>2.ビブリオバトルを行うことで論理的思考能力を身に着けることができる。</p> <p>3.プレゼンテーション能力を身に着けることができる。</p> <p>事前学習：コンテツシートを読み返し、クラスマッチに備える。</p> <p>事後学習：クラスマッチの代表となったビブリオの魅力についてまとめる。</p>

12/5	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>コミュニケーション(2) 【双方向授業とグループワーク】</p> <p>1.Computer-mediated communication(CMC)の特性について説明できる。</p> <p>2.CMCにおけるコミュニケーションの正確性について説明できる。</p> <p>事前学習： コンピュータメディアを通じた画面上のコミュニケーションにおいて気を付けるべきことをまとめる。</p> <p>事後学習： 課題テーマについて復習する。</p>
12/12	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>ビブリオバトル(2) ファイナルマッチ【プレゼンテーション】</p> <p>1.他の選択科目のクラスマッチにおいて選出されたバトルとビブリオバトルを行うことで、幅広い書籍情報を共有できる。</p> <p>2.説得力のある話し方について評価できる。</p> <p>事前学習： クラスマッチの代表となったビブリオの魅力と選択科目の関連性について考える。</p> <p>事後学習： ファイナルマッチでチャンプ本となったビブリオの魅力についてまとめる。</p>
12/19	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>チーム医療における人間関係</p> <p>1.チーム医療における医療従事者間の人間関係について説明できる。まとめ</p> <p>1.これまでの講義で得た知識と経験をもとに、自らの学生生活における良好な人間関係を構築する方策について説明できる。</p> <p>事前学習： チーム医療が必要とされるようになった社会背景について考える。</p> <p>事後学習： 科目全体を復習し、良好な人間関係を構築する方法を確認する。</p>

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	カラー版徹底図解 社会心理学	山岸俊男監修	新星出版社	2011
推	健康の謎を解く ストレス対処と健康保持のメカニズム	アロン・アントノフスキー 著	有信堂	2008

・成績評価方法

定期試験（50％）、各回の提出物（50％）で評価する。

・特記事項・その他

本科目では、各回の講義で人間関係を理解するために必要な社会心理学の概念を双方向授業とグループワークによる体験によって学ぶ。各回講義の最後に提示する課題テーマについて各自でまとめ、講義時間内に提出する。解説とフィードバックは次回講義の初めに行う。

一部「医療と法律」「パーソナリティ心理学」と横断的にビブリオバトルを行う。
ビブリオバトルにおいてはコンテンツシートの提出を求める。

シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、教科書・配布資料を用いて事前学習、事後学習をおこなうこと。各講義に対する学習時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC(dynabook R634/K)	1	講義資料の提示
講義	書面カメラ・DVD プレーヤセット	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ PC(HP Compaq Pro 6300 SFF)	1	講義資料の作成